

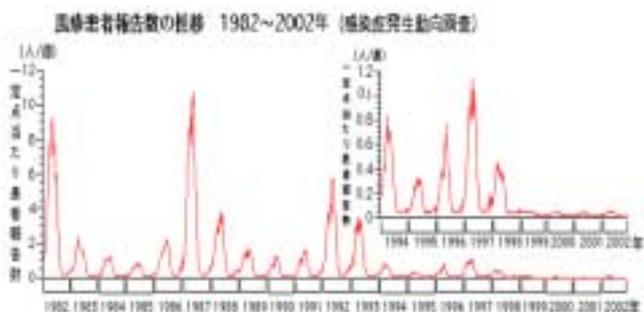
# へるす・りさーち

名古屋市衛生研究所だより No. 17

## 「風しん」はこわい感染症です！

### □ 小さな流行は今も続く

過去日本では、風しんは周期的(ほぼ5年ごと)に大きな流行を繰り返してきましたが、1999年以降は発生数が減り、沈静化しています。しかしながら2004年に入って増加の兆しが見え、従来は春から初夏に多く見られましたが、最近は季節性が薄れてきています。



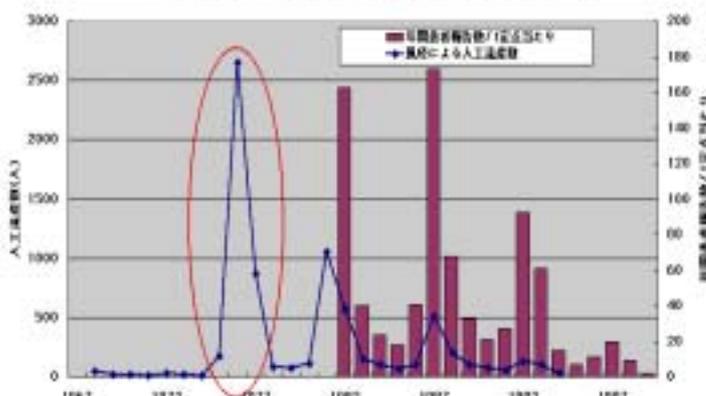
風しんの症状は子どもでは比較的軽く、大人がかかると発熱、発疹、関節痛などの期間が長いとされています。風しんの流行で問題となるのは、風しんそのものより、「先天性風しん症候群」の存在です。

### □ 先天性風しん症候群が増えています

妊娠中の女性が風しんウイルスに感染すると、胎児にも感染し、臓器形成に障害を及ぼす危険性があります。赤ちゃんは難聴、白内障、緑内障、心疾患(動脈管開存、心室中隔欠損など)、発達遅延など複数の障害をもって生まれてくる可能性があります。このような先天性風しん症候群(CRS)の発生する確率は、「妊娠初期」に感染するほど高く、妊娠3か月までに感染した場合、20~30%に達すると言われています。

CRSは1999年4月の感染症法の施行にあたって全数把握疾患(診断した医師はすべて報告する)となりました。1999年には報告がなく、2000~2003年には各1例の報告でした。しかし、2004

日本における風疹関連人工流産数と定胎後胎児染色体異常数の推移



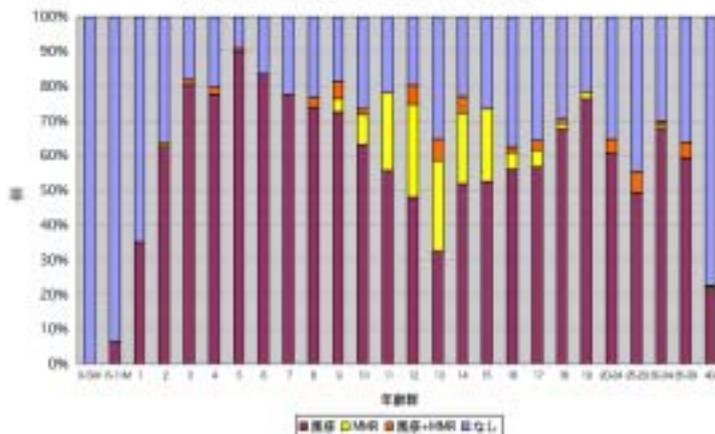
例年1975~1977年に発生した流行は顕著であり、そのために風疹ワクチン接種(CRS)の重要性を認識するに十分な人工流産中絶が行われ、1980年以降は、染色体異常の胎児はほとんど見られなくなり、染色体異常が減少した。

年になって新たな報告が相次ぎ、合計10例の報告数となっています。また上の図のように、風しんが流行する時には、感染を危惧した人工流産(妊娠中絶)が多く見られます。このようなCRSや感染を恐れた人工流産をなくすためには、我々ひとりひとりが風しんの予防に心がけ、風しんから社会全体を守っていく必要があります。

### □ 風しん予防接種の現状は？

以前風しんの予防接種は女子中学生を対象として実施されてきました。しかし流行が抑えられないため1995年からはすべての子どもについて生後12~36か月が望ましい接種年齢と定められました。下の図のように、現在特に中学生や高校生の接種率が

風しんワクチンAB群ワクチン接種率、2001年報 計2,155名



低いことが問題とされています。2001年の調査では15～19歳群のワクチン接種率は69%という低い値にとどまっていた。

**□ 国が「風しん対策の緊急通知」出す**

風しんおよび先天性風しん症候群増加の状況を踏まえ、厚生労働省は昨年9月9日に、厚生労働科学研究班の「緊急提言」をもとに各都道府県に対して3本柱から成る通知を出しました。

**予防接種を勧奨する**

今後の流行防止にはワクチン接種が最も重要であることから、その対応を定めました。

**風しんに罹患した妊婦の診療指針を示す**

妊婦の風しん罹患はイコール先天性風しん症候群の発生ではありません。先天性風しん症候群を恐れた無用の人工妊娠中絶が行われることのないよう、診療対応のフローチャートが示されました。主治医では対応できない場合を考え、より高度な対応（専門的カウンセリング、胎児診断など）が可能な各地方の二次施設を紹介する態勢も整備しました。

**風しんの流行が起こった場合には十分な疫学調査を実施する**

現行の感染症発生動向調査では、成人の風しんや単独障害のCRSが十分に把握できない状況にあります。風しんの流行が起こった際には、流行の全体像をとらえて感染拡大を防止するため、医療機関や学校などにおいて詳細な調査を行うことが必要です。研究班の提言では、風しんを全数把握疾患へ変更すること、単独障害も含めたCRSの報告基準を検討することなどにも触られています。

**□ 風しんの抗体をもたない人が多い**

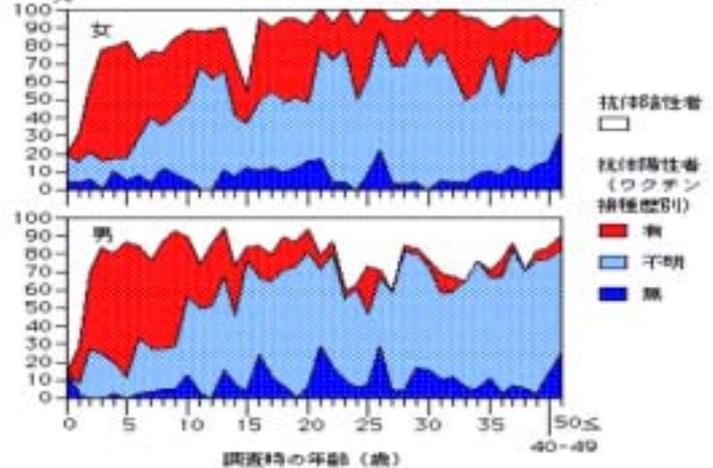
下の表は名古屋市16区の保健所で健康診査を受けた方の予防接種状況を集計したものです。

	受診者	接種済み数	接種率
1歳6か月健診	1,594	919	57.7%
3歳児健診	1,365	1,126	82.5%

名古屋市の保健所健診を受診されたおさまの風しん予防接種状況（いずれも2004年6月分） 資料/市健康福祉局予防接種研究会

感染予防の観点から見ると、この接種率は残念ながらまだまだ不十分です。麻しん（はしか）の標準接種年齢が生後12～15か月であることから、麻しんの予防接種を済ませて1か月を過ぎたら、でき

性別年齢群別風疹抗体保有状況，2001年  
(感染症流行予測調査)



るだけ優先して風しん予防接種を受けましょう。

予防接種が必要なのは子どもだけではありません。妊婦自身への予防接種はできませんが、同居の夫や子どもあるいは祖父母が接種を受けることにより、妊婦への感染を防ぐことが何より重要です。

上のグラフは、2001年の感染症流行予測調査事業によって得られたデータで、風しんの感受性者（つまり風しんの抗体が陰性で、感染をうけやすい方）が男女別・年代別にどれぐらいいるか、を示したものです。推計では、20～39歳の男性で風しんの免疫をもっていない方は約450万人、1～39歳の女性で風しんの免疫をもっていない方は約250万人います。妊婦の同居家族のうち、明らかに風しんの既往、予防接種歴、抗体陽性確認がある方以外は、急いで接種を受けてください。ワクチンはたとえ再接種したとしても問題はありません。

**□ 風しん・麻しんは2回接種へ**

予防接種によりまれに副反応（副作用）を起こすことがあり、それゆえ接種に否定的な方もいます。しかし「接種しないこと」で個人と社会がこうむる損害は副反応の比ではなく、その大きさははかり知れません。国は近く、風しんと麻しんのワクチンを混合して2回接種する方針を打ち出しました。麻しんも年間数十人の幼い命を奪う恐ろしい感染症です。1回の接種で免疫がつかないこともあるため、欧米諸国のように複数回接種にすることで確実に予防していこうというものです。家族を風しんとその合併症から守り、生まれてくる子をCRSにしないために、ひとりひとりが気をつけたいものです。

(グラフ資料/国立感染症研究所)